

東日本大震災・原子力災害 伝承館 が本来担うべき役割とは？

おのずと「事故を真摯に振り返って記録しよう」とはならず、「あそこからどう立ち上がったか」という、ある種の「サクセスストーリー」を最終的には訴えたいという結論ありきになってしまいます。起点そのものが違っていると思います。

後藤忍 (2021) 「10の季節を越えて」NPO法人ふくしま30年プロジェクト 56頁

「教訓」を伝える 福島第一原発事故の

11月21日(日) 13時~16時

会場：オンライン（Zoomを使用）
参加費：無料（要申込）

※ Zoomの使用方法が分からない方は主催者までお問い合わせください。
※ パソコン、スマホどちらからでも参加可能です。

▶ お申し込みはこちら

QRコードを読み込んでアクセスしてください。
パソコンの場合は、以下のURLを打ち込んでください。
https://fukushima-30year-project.org/?page_id=12803



講師 後藤 忍さん

国立大学法人 福島大学 共生システム理工学類 准教授
1972年大分県生まれ。大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻修了。博士（工学）。2004年から福島大学共生システム理工学類准教授。福島第一原発の事故後、環境教育の観点から特に原子力・放射線教育に関心を持ち取り組んでいる。政府が発行した原子力および放射線に関する公的な副読本における「公平性」の問題に着目し、福島大学放射線副読本研究会を組織し、独自の代替案となる放射線副読本を作成。また、福島県環境創造センター交流棟「コミュニティ福島」とウクライナ国立チェルノブイリ博物館の展示内容の比較なども行っている。著書に『みんなで学ぶ放射線副読本』。専門は環境計画、環境システム工学、環境教育。



主催・問い合わせ

福島市飯坂町字一本松11-7 TEL:024-573-5697 FAX:024-573-5698
<https://fukushima-30year-project.org/> info@fukushima-30year-project.org



認定NPO法人

ふくしま30年プロジェクト

この講演会は、福島県「令和3年度ふるさと・きずな維持・再生支援事業」の補助金の交付を受けて実施します。